

“私は CIA だ”

By Larry Chin

Global Research, January 17, 2015



9・11 以来「帝国」の脚本は常に、十八番の使い古した戦術、“ニセ旗作戦” (*false flag operation*) からなっている。

人目を引く残虐行為を実行せよ、または起こるように仕向けよ。それを選んだ敵の仕業にせよ。ウソだらけの公的物語を發表し、それを企業メディアに繰り返させよ。無知な、好戦的な群衆を怒らせ、憎しみを掻き立てよ。そうすれば、戦争屋「帝国」政策計画者と彼らの犯罪実行者たちの、思い通りの結果が得られる——つまり公的な承認のハンコをもらった戦争だ。

それがまた行われている。

「シャルリ・エブド」事件が“フランス版 9・11”として通っている。あらゆる最も悲劇的な点で、確かにその通りだ——9・11 のアメリカのように、今度はフランスが利用された。世界中の群衆が騙されている。そして再び、NATO の太鼓の響きに合わせてマーチが行われた。

あらゆる徴候が、直接的・間接的に、フランス情報部からワシントン——とバージニア州ラングレー (CIA 本部) ——にまで遡る。レッドヘリング (追跡を惑わすもの) と騙しの手口が、公的物語を構成している。

アルカーイダ物語、古典的な CIA の騙し行為が、今度は新しい面を見せた。アルカーイダ

が CIA の作った、アングロ・アメリカン軍 - 情報部だという事実は無視されている。ISIS 戦争の背後のアジェンダ——巨大で念の入った地域的な CIA ニセ旗作戦——はもっと目立たなくなった。

「シャルリ・エブド」のテロリストたちは、一般大衆が考えもしない、アングロ・アメリカン情報部とペンタゴンに、ヒモでつながっている。 <http://www.globalresearch.ca/paris-attackers-funded-by-pentagon-dinner-guest/5424060> 彼らはまた、(都合よく死んだ) 9・11 に関係あるアルカーイダ首謀者/CIA 軍 - 情報部要員 Anwar Al-Awlaki にもつながっている。これらや他の明らかな、ワシントンや CIA との繋がり、は、「私はシャルリ」の旗 (“魔法のように” 現れ、予め大量生産されていたらしい) を振っていた熱狂的デモ隊の間では、警告のベルを鳴らすことはない。

自作自演の徴候と今明るみに出つつある隠ぺいは、かなり重要なもので、それは現場で発見された、まっさらの無傷のパスポートから、エブドの調査を担当していたパリ警察署長 Helric Fredou の都合のいい自殺までである。(注：9・11 のツインタワーの瓦礫からも、きれいなパスポートが見つかった。)

<http://www.globalresearch.ca/paris-killings-media-lies-unanswered-questions-was-it-a-false-flag/5424029>

<http://www.globalresearch.ca/police-commissioner-involved-in-charlie-hebdo-investigation-commits-suicide-total-news-blackout/5424149>

Kouachi 兄弟と Amedy Coulibaly は、フランス政府、フランス情報局、それに CIA によく知られていただけではない。クワチ兄弟は長年の間、追跡され、モニターされ——誘導され——何度も逮捕され、しかもイラクやイエメン、シリアで、仲間のアルカーイダと共に、訓練や計画を続行することを許されていた。これらは指導された軍 - 情報部作戦の明らかなしるしである。一つの政府に知られ、よく目立つテロリスト細胞 (terror cell=数人からなり横の連絡はない) が “急に見失われ、” それから、ある適切な時間に放たれた——そして処刑された。

慣れた観察者ならこうしたことには警戒するが、その何一つとして、感情だけの一般大衆の間で気づかれることはない。彼らは、その本当の根源であるアングロ・アメリカの戦争計画者を、疑ってみることを意志的に拒否するレミングだ。

NATO の戦争アジェンダだけが、そこから利益を受ける。

“フランス版 9・11” は、もっと正確に言えば、フランスの最新の “グラディオ作戦” であ

る。(注: Operation Gladio は、冷戦中に CIA や NATO が行っていたヨーロッパ民間人を使ったニセ旗テロ、犯人はソ連や極左だと喧伝された。) Paul Craig Roberts が言っているように、シャルリ・エブド攻撃がなぜこのタイミングで起こったかには理由がある——

<http://www.globalresearch.ca/false-flags-charlie-hebdo-and-tsarnaevs-trial-cui-bono/5424038>

フランスは、ワシントンの押し付ける対ロシア制裁に苦しんでいる。造船場は、フランスのワシントンに対する従僕的地位のために、ロシアの注文品を届けられなくて困っている。フランス経済は、その他の面でも、ワシントンが NATO 傀儡国に、ロシアに対して行うように強制した制裁によって、痛手を被っている。

今週、仏大統領は、ロシアに対する制裁は終わりにすべきだと言った（ドイツ副首相も同じことを言った）。

ワシントンにとっては、これはフランスのあまりにも勝手な外交政策である。ワシントンは“グラディオ作戦”を復活させたのだろうか？ この作戦は、CIA が第二次大戦後の期間にヨーロッパ人を犠牲にして行った爆弾攻撃で、ワシントンはこれを共産主義者の犯行だとして、欧州の選挙での共産主義者の影響を破壊しようとした。グラディオ作戦のテロ攻撃の背後には共産主義者がいる、と世界が信じたように、フランスの風刺雑誌への攻撃は、ムスリムたちがやったことになっている。

現在、フランスは、アメリカが 9・11 以後にやったように軍国主義化している。そしてフランスの右翼は新しい隠れ家を見つけた。

敵意ある大衆の心の乗っ取り

最近数カ月の 2 つのニセ旗作戦を見るとよい——ソニーと映画『ザ・インタビュー』をめぐる北朝鮮へのニセ旗攻撃、それにシャルリ・エブドの騙し作戦。これらは共に、「言論の自由」と「表現の自由」をめぐる起こっている。

これは“自由”など全く考えていない連中が演出する、虚構の戦争だ。実は、一般大衆は、戦争と大量殺戮を支持し、特に自由を制限する警察国家のアジェンダを支持するように、操られているのである。

自発的に自由を手放させるほど、人々の自由を奪う巧妙な方法はあるまい。

“自由を守るため” だとして “テロへの戦争” を支持したアメリカ市民の大多数は、「愛国者法」を得ることになり、これは彼らに残された、なけなしの自由を骨抜きにした。憲法と権利章典 (Bill of Rights) は戻ってこないだろう。この過程がいま世界中で進行している。現在、トラウマのストレス症状をもつ、平均的な、何も知らないフランス市民に訊ねてみるがよい。彼らは喜んで権利を手放し、“テロリスト” がいなくなるためなら、何でもあきらめるだろう。

権力者たちは、無知な大衆が最も時間を過ごす場所を特に選んで、戦争推進メッセージをより強力に挿入していることに気づくべきだ——大衆的娯楽の場、ハリウッド映画、彼らの漫画、彼らの雑誌、有名人など。

『ザ・インタビュー』のような馬鹿げた映画や、「シャルリ・エブド」のような粗野な雑誌を、武器として利用せよ。そうすれば人々は、血に飢え、復讐に燃え、ものを考えず戦争を愛する者になる。

CIA の現在の使命は、その宣伝道具 (ISIS などの過激派) やプロパガンダを、メディアや大衆芸術に埋め込み、文化の感受性をコントロールし、討論の音頭を取ることである。それは現在この瞬間、強大な推進力で進められつつあり、テクノロジーと社会メディアのスピードと効果に、彼らは舌なめずりしている。

数えきれない無実の人々の命が、この無際限の、残忍な、犯罪的戦争によって失われた。しかし、それを仕掛けた者たちと使われた者たちは、手つかずのままだ。

私はラングリーだ

アングロ・アメリカンの征服戦争がなければ、シャルリ・エブドの殺戮はなかった。

CIA がなければ、好戦的なイスラムも、アルカーイダも、ISIS も、シャルリ・エブド殺戮もなかった。

9・11 がなければ、“テロへの戦争” も、ISIS の欺瞞も、シャルリ・エブドもなかった。

ロシアに対する戦争がなければ、シャルリ・エブドも起こらなかった。

では、私はシャルリか？ 違う。

ウソを信じ、プラカードを持って通りを行進するナイーブな人々に告ぐ——あなた方は犠牲者だ、騙されやすいカモだ、利用されているのだ。

あなた方は CIA だ。

あなた方は NATO だ。